



第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会
アフターヌーンセミナー 7

酒皰の 赤みへの挑戦

～患者QOL向上を目指して～

2024

11/16 (土)

15:20-16:20

第7会場

京王プラザホテル 4階 扇

座長

山崎 研志 先生

Aloop Clinic & Lab 院長

演題1

酒皰の治療アプローチを考える

大森 遼子 先生

東北大学皮膚科学講座

演題2

酒皰の赤みへのアプローチ

～当院の診断手順と治療アルゴリズム～

洲崎 玲子 先生

目黒陳皮膚科クリニック

東京女子医科大学附属足立医療センター

共催:第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会/グラファラボラトリーズ株式会社

GRAFA
LABORATORIES

講演 1

酒皰の治療アプローチを考える

演者：大森 遼子 先生

東北大学皮膚科学講座

2023年に尋常性痤創・酒皰治療ガイドラインが改訂され、丘疹膿疱型酒皰に対する外用療法である、0.75%メトニダゾールゲルが推奨度Aの治療法となった。ガイドラインでは、病型別の治療指針がより具体的に提示されている。海外では酒皰治療に対する様々な新規薬剤の開発や臨床試験が進んでおり、今後の治療選択肢が増えていくことが期待される。一方で、実臨床にあたっては薬物治療と並行して、患者それぞれの増悪因子や合併症を踏まえた生活指導が必須である。当施設で施行した日本人酒皰患者の340名の集計から、酒皰治療を開始するに当たって考慮すべき背景について検証すると、個々の患者がもつ合併症や生活環境要因の多様性から、それぞれに応じた治療のポイントが存在することが考えられた。これからの酒皰治療について、総合的なアプローチを軸に考察したい。

講演 2

酒皰の赤みへのアプローチ ～当院の診断手順と治療アルゴリズム～

演者：洲崎 玲子 先生

目黒陳皮膚科クリニック
東京女子医科大学附属足立医療センター

酒皰の患者は、慢性の経過で症状の再発を繰り返す患者が少なくない。顔面の赤みを主症状とする酒皰は、灼熱感や掻痒感という自覚症状のみならず、顔面の色調のために人の目が気になったり、自信が持てないなど、患者の精神的なQOLを低下させる要因になりうる。酒皰の患者は皮膚の過敏性が増しているという報告があり、皮疹を悪化させない適切なスキンケア指導も重要である。

近年の研究で、酒皰病変の形成は毛包虫の異常増殖が関与することが示唆されている。本講演では、実際の症例を供覧しながら、当院でおこなっている酒皰の診断手順、治療アルゴリズムを示す。そのうえで、酒皰と毛包虫の関係を考察し、その実態を把握するとともに、より有効な酒皰の治療方法について考えたい。